

1. 本園の教育目標

「強く・明るく・正しく」をモットーとし、健やかな体、大らかで明るい心、正しくものを見る目を育てる教育を目標としている。

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

「ぼくもわたしもみんなも大切にしようー元気なあいさつ、明るい笑顔、思いやりの心ー」を目標に掲げ、子どもたちの主体性を高める保育を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
保育のあり方	A	指導計画を作成し、新しい生活様式を取り入れながら実践することができた。子どもの自主性を大切に保育を心がけ、気になる子どもへも濃やかに関わることができた。
教師としての資質や保育の質の向上	A	研修会に積極的に参加し、職員間で習得したことの認識を深め、保育活動に取り入れた。毎日朝礼や終礼を行うことで、職員一人ひとりが全学年の子どもの状況を把握し対応することができた
保護者への対応	A	園だよりやクラスだよりなどで園の活動や子どもの様子を伝え、月末には連絡帳で子どもの様子を知らせた。4月・12月に個人面談も行い、通年電話や送迎時などで密に連絡を取り合い、対応することができた。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理由
A	年齢別に綿密な指導計画を作成し、子どもたちが主体的、対話的に活動できるように配慮し、概ね達成できた。3、4、5歳児の各発達に合わせた充実した活動を考えて実践できた。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援	気になる子どもに対しての個別指導計画の作成や適した環境づくりを行い、家庭、関係機関との連携を密に取り、一人ひとりに合ったサポートを柔軟に実施していく。研修会にも積極的に参加し理解を深めていく。
安全対策に関する理解	子どもの誤飲、発作、アレルギー等の対応に関する理解を全職員が共通理解し、把握する。また、地震、自然災害、不審者対策等様々な状況を想定した訓練を実施していく。
異年齢保育の実施	異年齢保育を増やしていく。(あそび、制作活動、行事など)

6. 学校関係者評価委員会の評価

工夫を凝らした保育や行事、異年齢活動の実施など素晴らしいと思う。

子どもたちは行動制限のストレスを感じずに過ごせていたと思う。

登降園で異年齢活動、集団行動、交通ルールを学べてとても良い。

本年度の目標から、朝、先生方が子どもの顔を見て笑顔で挨拶してくれるので、少しずつ自分から挨拶をするようになった。

先生方が、子どもの園生活について教えてくれるので、家とは違った一面を知り、成長を感じることができる。子どもたちのことをよく見てくれていると思う。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員